



子宮頸がん（HPV）予防接種説明書



- ①子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、近年 20～30 代で増加し、日本では年間約 1 万人の女性が発症し、約 3,000 人が亡くなっています。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がほとんどないため、発見が遅れてしまいます。「発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が発がんに関与していることが明らかにされています。
- ②発がん性 HPV は、ごくありふれたウイルスで、女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれるウイルスです。多くの場合、ウイルスは免疫によって自然に排除されますが、うまく排除されずに長期間の感染が続くと子宮頸がんを発症することがあります。
- ③予防接種を受けることで、発がん性 HPV の感染を防ぎ、子宮頸がんの原因の 80%～90%を防ぐことができます。
- ④HPV に感染する可能性が低い 10 歳代前半に接種することで、子宮頸がんをはじめとする HPV による病気の発症をより効果的に予防することができます。

1 子宮頸がん（HPV）予防接種の概要

接種対象者	小学6年生相当から高校1年生相当の女子（標準的接種期間：中学1年生相当）
使用するワクチン	シルガード9
接種回数	1 回目の接種を 15 歳になるまでに受ける場合・・・ 2回 ----- 1 回目の接種を 15 歳になってから受ける場合・・・ 3回
接種スケジュール	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">一般的な接種スケジュール</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; background-color: #f0f8e0;"> </div> </div> <p>※1 1 回目と 2 回目の接種は、通常 5 か月以上あけます。5 か月未満である場合、3 回目の接種が必要になります。</p> <p>※2・3 2 回目と 3 回目の接種がそれぞれ 1 回目の 2 か月後と 6 か月後にできない場合、2 回目は 1 回目から 1 か月以上（※2）、3 回目は 2 回目から 3 ヶ月以上（※3）あけます。</p>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年以内に接種を終えることが望ましいとされています。 ・ 既に発がん性 HPV に感染している人に対して、ウイルスを排除したり、既に発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。 ・ 既定の回数を接種しないと十分な予防効果は得られません。 ・ 接種の途中で妊娠した場合、接種は継続できません。その後の接種については医師にご相談ください。

2 次の方は接種を受けないでください

- ①明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）。
- ②重い急性疾患にかかっている方。
- ③ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある方。
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

3 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①血小板減少症や凝固障がい有する方。
- ②心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方。
- ③過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ④過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方。
- ⑤過去に免疫状態の異常を指摘された方、もしくは先天性免疫不全症と診断された親近者がいる方。
- ⑥現在、授乳中の方・妊娠している、または妊娠している可能性（生理が遅れているなど）のある方。
- ⑦別の種類のHPVワクチン接種を受けたことがある方。

4 副反応について

	シルガード®9
頻度 10%以上	注射部位の痛み・赤み・腫れ、頭痛
頻度 1～10% 未満	注射部位のかゆみ・内出血・しこり、発熱、疲れ、吐き気、下痢、体がふらつくめまい
頻度 0.5～1%未満	倦怠感、注射部の出血・血腫・熱感・硬結・知覚低下、筋肉痛、関節痛、嘔吐、腹痛、上腹部痛、口腔咽頭痛
頻度不明	無力症、寒気、注射部位の知覚消失・結節、四肢通、感覚鈍麻、失神、リンパ節症
右のような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。	重い副反応として、まれに、 1) 過敏症反応（アナフィラキシー反応や気管支痙攣（発作的な息切れ）、じんましんなど） 2) ギラン・バレー症候群（足から体の中心に向かうまひなど） 3) 血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など） 4) 急性散在性脳脊髄炎（けいれん、運動障がい、意識障がいなど） があらわれることがあります。


5 予防接種健康被害救済制度

万が一、子宮頸がん予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当、年金等の支給を受けることができます。

6 接種後の注意

- ①接種後は強く揉まず、軽く押さえる程度にとどめてください。
- ②接種後に、注射による恐怖、痛みなどが原因で、気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことをさけるため接種後すぐに帰宅せず、30分程度は接種した医療機関で座って安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
- ③接種した後に注射した部位が腫れたり、痛むことがあります。これは、体内に備わっている抵抗力が注射した成分を異物として認識するためにおこります。通常は数日間程度で治ります。
- ④接種後は、接種部位を清潔に保ってください。接種した日の入浴は問題ありません。
- ⑤接種翌日までは、過度な運動は控えてください。
- ⑥接種後1週間は症状に注意し、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- ⑦予防接種によってすべての発がん性HPVによる病変を防げるわけではありません。早期発見するために「子宮頸がん検診」の受診がとても重要です。宇都宮市では、20歳以上の女性（市民）であれば、誰でも受診が可能です（10代の公的な検診制度はありません）。20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

◎ 予防接種に関するお問い合わせは・・・



宇都宮市保健所 保健予防課
028(626)1114

予防接種を受ける前に
本説明書を必ず読んでください。